

◇ よりよい自分をつくっていくために（資料編Ⅱ） 「学びの実感を積み重ねる子ども発見！」作成にあたって

新学習指導要領の全面实施を控えています。各園・学校では、「資質・能力の育成」「社会に開かれた教育課程」といった言葉が話題になっていることと思います。

その中でも「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」については、主体的・対話的な授業の実践に留まらず、結果として子どもの学びは深まったかという評価の在り方にも言及している点が大きなポイントです。これは、従前より本県が進めてきた「学びの実感」と通ずるものです。

本県義務教育に関わる先生方におかれましては、改めて教師用指導資料「よりよい自分をつくっていくためにⅢ・Ⅳ」の冊子に立ち返るとともに、資料編Ⅰ・Ⅱを併せて活用し、御自身の授業づくりの参考にしてほしいと思います。

平成 25 年 3 月発行の「よりよい自分をつくっていくためにⅢ」では、「学びの実感」を積み重ねることを通して、主体的な学びの姿勢を育むとともに、どの子どもにも「確かな学力」を育むことを全体イメージとして示し、学びを実感する子どもの姿を理解していただくために実践事例を紹介しました。

続く平成 27 年 3 月発行の「よりよい自分をつくっていくためにⅣ」では、「大切にしたい授業づくりの基本要素」と「教師の授業づくりを支える学校体制」について示しました。

これら「よりよい自分をつくっていくためにⅢ・Ⅳ」の資料として、平成 28 年 3 月に資料編Ⅰ「学びの実感を積み重ねるために—こんな授業にしたい—」を作成し、Web ページ上に掲載しました。この資料は、各教科等において、目指してほしい授業のポイントについてまとめ、経験の少ない若手教員が見ても分かるように、平易な言葉で、より具体的に子どもの姿がイメージできるようにしました。

今回、資料編Ⅰにつながる続編として、資料編Ⅱ「学びの実感を積み重ねる子ども発見！」を、教科に引き続き領域に関しても Web ページ上に掲載しました。教育事務所が学校訪問等を行う中で、学びを実感する子どもの姿が見られた授業を厳選し、その授業のよさを価値付けた資料です。子どもが学びを実感できるように、教師がどのような単元を構想して、どのような手立てを講じていたのか、ぜひ読んでいただき、授業観、指導観を校内研修等で共有してほしいと思います。

※道徳は小学校において平成 30 年度から全面实施となるため、本資料では「道徳科」として扱っております。